令和6年度
北方領土青少年等現地視察事業
報告書

北方領土イメージキャラクター　エリカちゃん・エリオくん

北方領土返還要求運動埼玉県民会議

１　趣旨

北方領土問題を身近な問題として捉えてもらい、返還要求運動を継承してもらうことを目的として、北方領土返還要求運動埼玉県民会議が構成した青少年等現地視察団を北方領土隣接地域に派遣し、青少年に北方領土を視察してもらうとともに、元島民の体験談を聞くなどの機会を提供した。新型コロナウイルス感染症の影響により２０２０（令和２）年以降派遣を中止していたため、今年度は５年振りの実施となった。

２　期間

２０２４（令和６）年７月２９日（月）から同年８月１日（木）までの３泊４日

３　視察地域

北方領土隣接地域（根室市、別海町、中標津町）

４　参加者

２５名

【内訳】

・久喜市立久喜中学校　１０名（引率教諭１名含む）
・県立岩槻高等学校　　１０名（引率教諭１名含む）
・事務局　　５名（埼玉県北方領土教育者会議１名、
独立行政法人北方領土問題対策協会推進委員１名、
日本労働組合総連合会埼玉県連合会１名、
埼玉県２名）

★北方四島について

（独）北方領土問題対策協会ホームページより引用

５　行程

２０２４（令和６）年７月２９日（月）

10:45	集合（羽田空港 国内線第２ターミナル）
12:55	羽田空港　発　根室中標津空港　行
14:25	根室中標津空港　着
15:30～16:15	別海北方展望塔　視察
17:45	ホテル　着

〈別海北方展望塔〉

「北方領土返還要求運動」の正しい理解と国民世論の高揚のため、１９７９（昭和５４）年に設立された。施設の隣には１９８２（昭和５７）年８月７日に建立された「四島への道　叫び」の像がある。たとえ何代かかっても北方四島を取り戻すという国民総意の気持ちを表すため、老女が息子、孫を従えて「返せ」と叫ぶ姿が鋳込められたものである。

また、野付半島から国後島までの距離１６ｋｍにちなみ、叫びの像から１６ｍ先には四島を象徴する４本のポールが立っている。さらに、目的が達成されるようにという願いから、像とポールの間には「四島への道」が続いている。

２０２４（令和６）年7月３０日（火）

8:45	ホテル　出発
9:00～10:30	北方四島交流センター（ニ・ホ・ロ）　見学
10:30～11:30	語り部聴講(択捉島出身：鈴木　咲子　氏)
13:30～14:30	現地高校生(根室高等学校)との交流、意見交換
14:45	北方四島交流センター（ニ・ホ・ロ）　出発
15:00	ホテル　着
16:00	久喜中学校・岩槻高等学校　意見交換

〈北方四島交流センター（ニ・ホ・ロ）〉

日本（ニ）とロシア（ロ）を繋ぐ北海道（ホ）の交流拠点。北方領土問題についての国内外の世論を一層盛り上げるとともに、北方四島（歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島）に居住するロシア連邦国民との交流の促進を図る拠点施設として２０００（平成１２）年２月７日「北方領土の日」に開設された。展望室からは国後島や知床半島を間近で臨むことができ、展示室では北方領土の歴史や現状を学ぶことができる。

〈語り部聴講〉

択捉島出身の鈴木咲子氏に、択捉島や樺太での生活や伝えたい思い等についてお話いただいた。

〈現地高校生との交流、意見交換〉

北海道根室高等学校の北方領土根室研究会の部員４名及び顧問と、北方領土問題の認識や活動内容等について意見交換を行った。

〈久喜中学校・岩槻高等学校　意見交換〉

各学校の生徒を混合で３グループに分けて、ここまでの体験を踏まえて感じたことや考えたことについて、意見交換を行った。

２０２４（令和６）年７月３１日（水）

8:30	ホテル　出発
9:00～10:00	根室市役所　副市長表敬訪問
10:15～11:00	根室市歴史と自然の資料館　見学
13:00～14:45	納沙布岬、北方館・望郷の家　見学
15:45	ホテル　着
16:00～17:00	久喜中学校・岩槻高等学校　報告会

〈根室市副市長表敬訪問〉

竹本副市長から、北方領土問題の概要や根室市における北方領土返還要求運動等についてお話を伺った。

〈根室市歴史と自然の資料館〉

根室市とその周辺の歴史、自然に関する資料の収集、保管、展示を行っている。市内の遺跡から出土した資料、ロシア発の遣日使節であるラクスマンの根室来航に関する資料、樺太に設置されていた国境標石などの資料のほか、シマフクロウ、ラッコ等、この地域を特徴づける資料も展示している。

〈納沙布岬（四島のかけ橋・祈りの火）〉

北方領土返還記念シンボル像「四島のかけ橋」は、北方領土の占領を許すまいとする国民の強い願いと、祈りの心を結集し北方領土が返還されるまで粘り強く、返還運動を続ける決意を象徴するために作られた。北方四島を４つのブロックで表し、それが連なりあって大きなかけ橋となり、北方領土返還を祈るゲートとして表現されている。

「祈りの火」は、１９７２（昭和４７）年５月１５日に祖国復帰を実現した波照間島（沖縄県）で古式に則り採火され、全国縦断キャラバン隊の手で根室まで運ばれ、１９８１（昭和５６）年９月に点火された。「北方領土返還運動の火を絶やすな」を合言葉に、返還実現のその日まで、北方領土に向かって灯し続けられている。

写真：（独）北方領土問題対策協会ホームページより引用

〈北方館・望郷の家〉

北方館は、１９８０（昭和５５）年８月に（独）北方領土問題対策協会が開設し、北方領土問題の発生の状況や歴史的経緯をわかりやすく解説した資料を展示している。望郷の家は、北方領土の島々を追われた元島民の心の拠り所として１９７２（昭和４７）年４月に（公社）千島歯舞諸島居住者連盟が開設し、戦前の島民の生活関連資料や島々における町並み、住居表示を折り込んだ地図などが展示されている。

〈久喜中学校・岩槻高等学校　報告会〉

　各学校の代表者が、事業を通して北方領土問題に対しての認識がどのように変わったか、北方領土問題を解決するにはどうしたらよいかについて発表した。その後、推進委員から、北方四島への訪問事業での体験談を伺った。

２０２４（令和６）年８月１日（木）

8:00	ホテル　出発
8:15～9:00	船舶「えとぴりか」　見学
10:20～10:30	別海北方展望塔　集合写真撮影
11:30～12:30	開陽台展望館　見学
12:45	中標津空港　着
15:15	中標津空港　発　羽田空港　行
16:40	羽田空港着、現地解散

〈えとぴりか〉

国の「四島交流等の実施及び後継船舶の確保に関する方針」に従って建造され、２０１２（平成２４）年度から供用が開始された北方四島交流等事業に使用する船舶。船名は公募により決定された。船名の由来であるエトピリカは、根室半島や北方四島の海域等に生息する海鳥で、オレンジ色のくちばしに、頭から垂れ下がるクリーム色の飾り羽を持ち、真っ白な顔をした美しい鳥である（「ピリカ」はアイヌ語で「美しい」の意味）。

〈開陽台〉

中標津町のランドマーク。天気が良い日は国後島を望むことができるが、今回は天気に恵まれず見ることができなかった。

６　参加した生徒の感想文（抜粋）

●参加する前について

・私は、北方領土青少年等現地視察に参加する前までは北方領土は今、ロシア人が住んでいる場所だということしか思っていませんでした。北方領土はロシアと日本の領土問題ということしか知りませんでした。

・視察前の私は、「日本の領土がロシアに盗られている」という漠然とした認識しか持っていませんでしたが、実際の政治的背景を知ることで、自分の無知を思い知り、単純化された知識ではなく、正しい知識を持つ重要性を痛感しました。

・自分は領土問題について最初は深く知らず、すごく軽く考えていました。日本とロシアのいざこざによって、日本の領土である北方四島をロシアに占領されてしまったということくらいしか知識がなく、どのようにして占領されてしまったのか、あまり知らない部分が多かったです。

・そもそも私は、北方領土問題についてあまり詳しく知りませんでした。なぜなら、自分の住んでいる国の問題ですが、遠い地域の問題なので、詳しく知ろうと思わなかったからです。

・「北方領土返還運動」と聞いて何を思い浮かべるだろうか。私はデモ活動や相手国に直接返還要請をしていると思っていた。（中略）返還運動に関して、存在は知っていても内容についてまでは詳しく知らないということに気がついた。

●視察中印象に残ったこと

①語り部聴講（元島民　鈴木　咲子　氏）

・聞いているだけで胸が締め付けられているように苦しい気持ちになりました。聞いているだけでこんなに苦しいのだから、実際に経験しお話をしてくださった鈴木さんはもっと苦しいのだろうと思います。けれど、私たちのためにお話をしてくださった。それはきっと私たちに北方領土での記憶を継承したいと思っているからなのだと考えました。私は鈴木さんの想いを絶対に忘れません。

・鈴木さんのお話の中で印象的だったのは島を追われる前、少しの間だけロシア人と過ごした時間があったということです。そして、交流の中心となったのは大人だけではなくまだ小さな子供だということも聞いて驚きました。子供同士はお互いに、物理的にも心の距離的にも近く、子供が先にロシア語を覚えて、大人に通訳していたという話も聞きました。（中略）お互いに嫌悪せず、協力し合った日々があったことを聞くと、相手を理解し再び共に生活することは不可能ではないのではと考えました。

・元島民の方、鈴木咲子さんはロシアが攻めてきた順で話を進めてくださったのでロシアの動きとそのときの島民の人の動きが同時にわかりました。当時を経験していない私も、ロシアをすごく恨んでしまいました。（中略）しかし、鈴木さんは、怒りという気持ちよりロシアとの現状を修復し、友好的な国際関係を結びたいと願っているとおっしゃっていました。最初は少し驚きましたが、後々、鈴木さんの願いに納得し、前向きな鈴木さんの姿勢に感銘を受けました。私がこの鈴木さんの話の中で最も印象に残っているのは、話の内容ではなく、鈴木さんの表情と話し方です。私が先ほどの鈴木さんの願いを納得できた理由でもありますが、鈴木さんの表情も話し方もすごく優しく、どこか切ない、おおらかな様子でした。

②現地高校生（根室高校４名）との交流

・高校生の方々からは、北方領土返還のために多様な活動をしているということを学べました。主な活動は、色々な学校での発表、弁論大会、ほかの地域に行き北方領土について学んでもらう活動などをしていることがわかりました。また最後に質問できる時間がありました。私が質問した「どの活動が１番効果的だったと思いますか」に対して、根室高校の生徒のみなさんは、弁論大会が効果的だと感じているそうです。

・お話ししてくれた生徒たちは、部活動の一環として活動しており、部活動を兼部していると聞いて大変な努力をしていると感じました。道外に行って返還要求運動を行ったり、私たちのような人々に講話をしてくれたり、四国の高知や香川といった北海道から遠く離れた地域との交流を行っていることに驚きました。

・初めの自己紹介のとき、彼らが北方領土についての部活動に所属していると聞き、すごく驚きました。北方領土問題が深刻なことはよく知っていましたが、部活動まであると思いもしなかったからです。しかし、この北方領土に関する部活動を有するのは北海道や全国を見ても根室高校だけだろうとおっしゃっていました。すごく残念に思いました。部員が少ないことは仕方がないことですが、せめて北方領土に関する研究会が根室高校にはある、ということが全国に広まってほしいと感じました。

③根室市副市長表敬訪問

・３日目は、根室市役所で副市長への表敬訪問があり、北方領土問題についてお話を伺いました。「知ること、考えること、伝えること」の大切さを教わり、将来選挙権を得た時には、この問題を考えてくれる人を選びたいと思いました。

・根室市副市長のお話によると、返還運動の主な活動は元島民や島民二世を中心とした日本人とロシア人の交流だそうです。しかし、現在はロシアのウクライナ侵攻によって数年間その交流ができていないそうです。さらに元島民の高齢化により、返還を望む声が小さくなっているそうです。だからこそ、返還運動についてより多くの人に知ってもらい、返還の輪を大きくすることが急務だと感じました。

④納沙布岬

・ノサップ岬からは、貝殻島が肉眼で見えるほどに近かったです。昨年貝殻島からノサップ岬まで流氷によって地続きになったという話を聞きました。近いのにもかかわらず自由に行き来できず、元島民はノサップ岬から貝殻島をただ眺めることしかできない現状にとても胸が苦しくなりました。

・私は、納沙布岬に立って第一に思ったことは、こんなに近くにあるのに未だに返されていないなんて少し腹立たしいし、さらに今も自分の故郷がこんな目の前にあるのにそこに行けていないと想像するととても悲しい気持ちにもなりました。同時に悔しい気持ちが芽生えてきました。

・北海道に着いてからは悪天候続きだったのですが、岬では天候にも恵まれ、北方領土の中でも一番近い位置にある貝殻島の灯台を肉眼で視認することができました。肉眼でも見えるほどに近い距離に私たちの島が存在しているのに、行くことすら許されないというのはとてももどかしい気持ちになりました。また、北方領土返還記念シンボル像である「四島のかけ橋」と「祈りの火」を間近で見学し、このシンボルに込められた人々の想いを強く実感することができました。

⑤船舶「えとぴりか」　見学

・えとぴりか号とは、北方領土に行くために使う交通手段の船です。えとぴりか号の中は、何日も船の中で生活できるようにいろいろな工夫がされていました。例えば、海の揺れで倒れないように椅子を鎖で繋いでいたり、揺れで溢れないようにお風呂が普通より深く作られたりしていることです。他にも、車椅子の方も入れるようにスロープがついていたり、船内がマグネットになっていたりしていて、えとぴりか号を見ることはとても面白くて貴重な体験になりました。

●現地視察を終えて

・今回の活動で北方領土問題について関心が深まりました。これからは他人事ではなく自分事と思いボランティア活動に積極的に参加していきたいです。そして人の争いをなくすにはコミュニケーションを行い、お互いを理解していくことが大切だと改めて理解できました。

・私は、約８０年もの間、北方領土はロシアに不法占拠されているのに、今はビザなし交流も途絶えてしまい、北方領土について知る機会が少なくなっていると感じました。私も、今回の現地視察までは北方領土についてロシアが占領していることしか知らなかったし、この経験を通して、北方領土の近くに行かないと知ることができないと思ったので、今後はテレビで北方領土の日の２月７日に北方領土について放送したり、私たちと同じように現地視察をした人たちが、身近な周りの人たちに伝えていったりして、北方領土についての関心が日本全国で高まればいいなと思いました。

・学校では何度も教科書や資料集を使って学習していて、全てわかった気でいたり、よくニュースでも聞いていたので、たくさん活動しているし、もう解決するだろうと他人任せでいたりしていました。ですが、今回この事業に参加するにあたって、自分の知識不足さ、文字だけでは計り知れないことがあることを強く感じ、多くの考えや視点を学び、考え直すことができました。そして今まで学習していたことはほんの一部に過ぎないこともわかりました。

・今回の視察で初めて知ったことや、今後も学びたいと思うことが多くありました。そして、北方領土問題についての自分自身の考えもできたため、参加できて本当に良かったと思います。今後、まずは自分の家族や友達に北方領土問題について広めていき、いつかまた北方領土問題に関することに関わりたいと思います。

●自分たちができること

・私たちにできることは伝えること。それに尽きると思う。実際に私は視察事業の次の日、家族や友達に経験したことや学んで蓄えた知識を伝えることができた。今を生きる私たちには多くの手段があり、その一つがＳＮＳである。私の学校ではインスタグラムの取組を行っているのでたくさんの方に知っていただける機会があることに気づいた。

・私はただの高校生だ。高校生にできることなど限られているだろう。その限られた中でできることを考え、私は納沙布岬にある北方館で署名活動をしてきた。私一人の署名だけでは何も変えることはできないと思い、家族・友人に今回の事業で学んだこと、思ったことを伝えた。（中略）私たちのように実際に詳しく学んだ人は周りの人に伝える際、興味関心を持ってもらうことを目標にしなければならないと思った。そして、関心を持ったならば自分で調べるようにも伝えなければならないとも思った。

・実際に「北方領土まで歩こう会」（＊）などに参加することです。視察だけでは学べなかったこともたくさん学べるし、歩いてみることで実際の北方領土をより身近に知ることができるからです。

＊北方領土隣接地域振興対策根室管内市町連絡協議会が主催している「北方領土まで歩こう会」は、誰でも気軽に参加できるウォーキングを通じて、納沙布岬に向けて北方領土までの実際の距離である３つのコース（国後、水晶、貝殻）を歩き、本土から北方領土までの距離を体感することができるイベント

●事業終了後に実際に行った活動

【久喜中学校】

「自分たちの見たこと、感じたことをまずは身近な人に聞いてもらいたい。自分たちが今すぐできることから行動をしてみたい」との思いから、令和７年３月１２日に校内向けの報告会を行った（１・３年生：オンライン視聴、２年生：多目的室）。

報告を聞いた生徒からは、「あんなに面積が大きいとは知らなかった」「条約などできちんと約束していたはずなのにどうして…」「ウクライナの戦争は日本にとって他人事ではないと改めて感じた」などの感想が寄せられた。

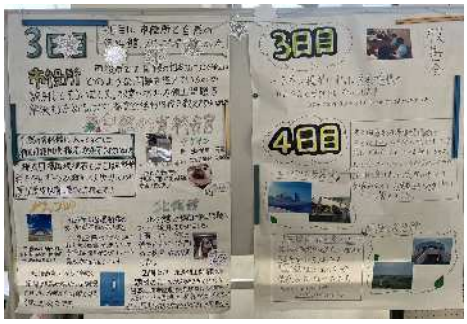
▲食い入るように報告を聞く生徒たち（オンライン）

【岩槻高等学校】

① 全校生徒への報告会（２学期始業式）

② 掲示ポスターの作成・展示

身近な人に北方領土問題や事業の中で実際に学んだことや思ったことについて知ってもらうため、校内の生徒向けに報告会やポスターの作成・掲示を行った。



③ 学校ホームページでの特設ページ開設

校外にも広く北方領土問題や現地視察事業の情報を発信するため、学校ホームページ内に特設ページを開設した。

北方領土問題の概要や事業の感想・写真だけでなく、「私たちができること」として、ホームページを見た１人１人が行える活動を紹介している。

▲特設ページの QR コード

※QR コードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

７　第４０回北方領土返還要求埼玉県民大会での報告会

令和７年２月１３日、第４０回北方領土返還要求埼玉県民大会の参加者に向けて、各学校１０分程度の報告会を行った。

【久喜中学校】

【岩槻高等学校】

北方領土
現地視察事業
に参加して

北方領土イメージキャラクター　エリカちゃん

久喜市立久喜中学校

目次

1　咲子さんのお話
2　北海道立北方四島交流センター
3　根室市役所
↳キャラバン隊
↳北方領土対策本部
4　納沙布岬・北方館
5　私達にできること
6全体を通して

写真：（独）北方領土問題対策協会ホームページより

1　咲子さんのお話
（択捉島蘂取村にて…）

咲子さん

択捉島の蘂取村で実際に生活していた
元島民の方

咲子さんの話より（一部抜粋）

　数年前ロシアの方との交流会で男性のロシア人の方に
「**あなたは私達ロシア人に怒っていますか？**」
と聞かれました。
　交流会では基本、北方領土については語らず、単純に両国の文化にふれあい、親交を深めるというのが主な活動だったので、ロシア人の方からこういった質問を受けたのには大きな衝撃を受けました。
　私は以下のように返しました。
「**自分の故郷を追われた身ですからもちろん恨んではいます。しかし、このようにロシアの方と交流し、あなたが歩み寄ってくれたことはとても嬉しいし、感謝しています。**」

２　北海道立北方四島交流センター（二・ホ・ロ）

二・ホ・ロで学んだこと　その１

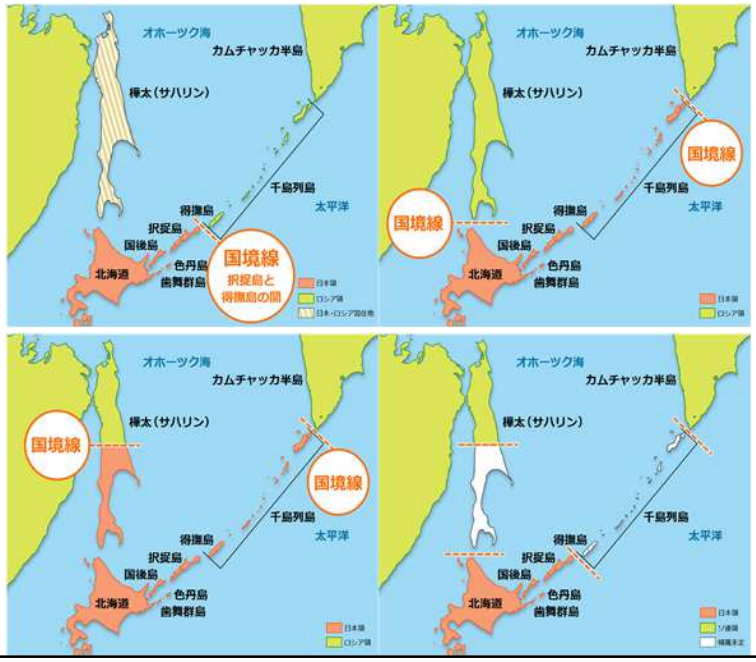
ロシアの文化

ホフロマ塗り	バラライカ	マトリョーシカ

二・ホ・ロで学んだこと　その2

写真：（独）北方領土問題対策協会ホームページより

歴史



二・ホ・ロで学んだこと　その３

実は…
海底ケーブルが
巡っていた

北方領土で盛んだった産業

- 林業　1000m以上を超える山が多かった。
- 農業　基本的にじゃがいも、大根、かぼちゃなど
- 畜業　馬4000頭を超える。牛300頭を超える。
  狐200頭ほど
- 鉱業　ほぼ硫黄を取っていた

生活環境のほとんどが
日本人の手によって整えられていた

３　根室市役所
キャラバン隊／北方領土対策部

～副市長さんがお話していたこと～

①キャラバン隊　　②北方領土対策部

写真：（独）北方領土問題対策協会ホームページより

①キャラバン隊について

写真：（独）北方領土問題対策協会ホームページより

②北方領土対策部について

・北方領土問題に関する啓発運動を行っている。

・８月の北方領土返還要求運動強調月間や

　２月７日の「北方領土の日」特別啓発期間を中心に展示会を行っている。

・観光地やイベント会場で署名活動を行っている。

4　納沙布岬
北方館

①四島の架け橋・祈りの火

→ロシアへの怒り

→領土問題に対する執念

写真：（独）北方領土問題対策協会ホームページより

②貝殻島

現在の貝殻島

納沙布岬からみた貝殻島

写真：（独）北方領土問題対策協会ホームページより

③北方館

私達にできること

北方領土について調べてみる

北方領土　検索

北方領土問題対策協会HPより

歯舞水産物水産ブランド化推進協議会　検索

歯舞群島周辺の水産物

写真：（独）北方領土問題対策協会ホームページより

私が感じたこと①

　ロシアにも国民の生活があり、それを守るためには時には妥協が必要かもしれません。したがって、日本に求められるのは、ロシアと日本両国が納得できる提案を考えることだと思います。　北方館の副館長の方が「あと数年であなたたちにも選挙権が与えられます。」とお話されていました。その際には、自分の意見を反映してくれる政治家に票を入れるなど、両国の関係改善に力を添えていきたいです。

写真：（独）北方領土問題対策協会ホームページより

私が感じたこと②

「北方領土問題」という日本と外国が関わる事業をわたしたち中学生が体験させていただくということは簡単なことではないです。しかし、北方領土問題に関する知識がほとんどなかった私たちだからこそ、この問題に対して客観的に考えることができたのではないかと思います。

私たちは「よしじゃあ今からロシアと話し合おう」「総理にお願いしよう」と簡単には言えません。だから私たちができるのは、もっとこの問題をアピールすることではないかと私は思います。

写真：（独）北方領土問題対策協会ホームページより

北方領土青少年現地視察事業

岩槻高校

1日目

別海北方展望塔(野村軍別海町)

野付半島から国後島までの距離16km

「四島への道叫び」の像

から16m先には四島を象徴する4本のポールがあり、その間には「四島への道」が続く

「返せ」と叫ぶ老女と孫の像

【資料展示室】

- 領土問題に対しての日本政府の取り組み
- 北方四島訪問事業
- 根室管内での取り組み
- 昔と今の様子
- 歴史　ect…

２日目

北方四島交流センター　ニ・ホ・ロ

- 展示室
- 日本・ロシア文化ルーム
- 展望室
- 北方資料館展示室

印象に残った部屋

【展示室】

【日本・ロシア文化ルーム】

根室高校の北方領土根室研究会との交流会

北方領土根室研究会の活動

署名活動、ラジオでの啓発活動(FM根室「未来への航路」)、弁論大会、出前講座

Q. なぜ未だ解決へと踏み出せないのか？

A.「国同士が自分の考えを優先している」
「世論と国の意見にズレがある」

根室高校の北方領土根室研究会との交流会

北方領土返還要求運動には課題が…

問題が生じてからもうすぐ80年

- 高齢化(平均年齢88歳超)
- 急激な元島民減少
- 返還要求運動後継者の育成

３日目

市役所

自然の資料館

北方館

ノサップ岬

４日目

えとぴりか号

実際にロシア船と
交信ができた…!

「（独）北方領土問題対策協会ホームページより」

開陽展望台

格子状防風林の歴史

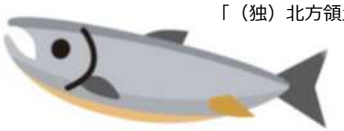
野付半島～国後島
が見える

占領される前の平和な択捉島

<u>択捉島は自然がたくさん！！</u>

「（独）北方領土問題対策協会ホームページより」

・6月上旬から中旬にかけては、
ハマナスの時期！
風に乗ってハマナスの香りが群生地
から藥取村までやってくる



・秋はたくさんの鮭がのぼってくる！

鈴木　咲子氏の講演資料から

戦後、占拠下での暮らし

- 若い娘は皆ロシア兵に連れていかれる等の不穏な噂

- ロシア兵による強引な家への押し入り・
  金目の物などの強奪・破壊
  飼い犬を殺害し、毛皮を剥ぐetc…

しかし…！！！！！

ロシア人と共同生活をしていた時期もあった！

互いの言葉を覚え、盆踊りやダンスパーティーなどをするように！
子供を中心に交流が行われ、友情や協力体制が日に日に深まっていった。

島を追われたその後

・択捉島から樺太の真岡にある収容所へ強制送還…

島を離れる時、島民は仲良くなったロシア人と抱き合って泣いていた…

(元気でね、必ず帰ってきてねなどというやり取りも…)

ビザなし交流

ゴルバチョフ大統領により、平成４年からビザなし交流が始まった。

（令和２年度から新型コロナウイルス感染症の影響やロシアとウクライナの情勢による日露関係悪化により実施できていない。）

最後に

・少しでも北方領土問題に耳を傾けること

・自分で調べてみること

・身近な人に伝えること

北方領土問題解決のためには…